

令和5年度しまね社会貢献基金クラウドファンディング事業報告シート

団体名	「自分ごと化会議 in 松江」実行委員会
事業名	自分ごと化会議 in 松江～学校給食から『子ども』と『食』を考える～
事業費(うち支援額)	1,032,013 円(750,500 円)



■事業目的

松江市の地域の課題について、誰もが自由に安心して話し合える「場」をつくります。市民全体から無作為抽出した人に集まってもらい、「普通の市民」がその時のテーマについて専門家などの話も聴きながら議論します。そして一人ひとりがテーマについての「自分ごと化」を進めます。それらを通し、様々な社会問題を自ら考え、行動できる市民を増やしていくことが目的です。また、話し合った内容は提案書にまとめ、行政や関係団体、そして市民自身に向けて発信し、松江市が抱える問題を市民発想で解決できるよう努力します。

■事業内容

今回(第3期)のテーマは「学校給食から『子ども』と『食』を考える」で、2023年10月から2024年2月まで5回にわたって話し合いました。松江市の有権者から無作為抽出した約2000人へ案内状を送付し、その中で希望された方16人と、プラス島根大学の学生5人が議論に参加しました(無作為抽出は、松江市選挙管理委員会です正式に公開される選挙人名簿から実施)。さらに「子どもオブザーバー」として延べ12人の中高生に参加してもらいました。

会議では専門家などからの話題提供を受け、参加者が中立のコーディネーターのもと、毎回全くシナリオ無しで自由に議論。その結果を「市民からの提案書」としてまとめました。今後、市民報告会を開催するとともに、提案書を学校や行政、関係団体に手渡す予定です。

■事業成果と今後の展望

多くの参加者から、5回の話し合いがとても楽しかったという感想が出されました。学校給食あるいは食について、一人ひとりが全く違う見方や意見を持っていることが分かり、あらためて参加者は今回のテーマを自分ごと化しました。

そして、「子どもの目線に沿い、子どもたちを中心に『給食』と『食』を考える」をポイントに6つの改善提案をまとめました(「市民の提案書」<https://www.facebook.com/jibungotokamatsue/>をご参照ください)。なお、今期初めて「子どもオブザーバー」として中高生に出席してもらい、提案書に子どもの目線を取り入れることができました。<黙食をやめ、給食の時間をもう一度楽しい時間に>という提案は、参加してくれた中高生の発言から始まって出来あがったものです。

この提案書が、学校給食や子どもを取り巻く環境の改善に少しでも役立つことを願っています。また、今回の取り組みをきっかけに、地域のいろいろな課題を「自分ごと化」する市民が増えることを期待しています。